

## 『USBメモリ』

宮杉 浩

今回は前回お話しした「フロッピーディスク」に取って代わる外部記憶メディアとして急速に発達している「USB」を利用した大容量記憶装置である「USBメモリ」についてお話しします。

まず「USB」とは何かという事から始めますが、「USB」とは「Universal Serial Bus」の略で、コンピュータに周辺機器を接続するためのシリアルバス規格の事であります。USBの特徴は今までのシリアルバス規格（シリアルポートやパラレルポートなどと呼ばれている規格）と違い、電源がパソコンから供給可能なことと、パソコンの起動中に自由に抜き差しできる点です（この仕組みをパソコン用語で「プラグアンドプレイ」と言います）。今までの接続規格だと、パソコンの電源が落ちている状態でしか繋げない、一度接続すると取り外すのが面倒といった点がありましたが、USBではそれを克服し、データ転送速度も大幅に向上したので、現在ではプリンタ、スキャナ、デジタルカメラからマウス、キーボードなどあらゆる周辺機器の接続に用いられるようになっていきます。

さて、本題の「USBメモリ」とは前述のUSB規格コネクタを利用して使用するフラッシュメモリの事で、データの消去、書き込みが自由にでき、コンパクトなので持ち運びも容易と非常に優れたメディアです。USB規格は元々「USBマストレージクラス」というドライバプログラム仕様になっており、これのおかげで面倒な設定をしなくても、どのパソコンでもUSBメモリを使えるようになっていきます。

USBメモリの記憶容量は32MBから256MBが一般的です。フロッピーディスクの容量が1.4MBですから、いかにUSBメモリが大容量であるかがおわかりいただけると思います。価格も手頃で、フロッピーディスクよりも丈夫、そして音楽データや画像データといった容量の多いデータを扱う機会が増えた事により、USBメモリは外部記憶メディアとして確固たる地位をますます築きあげています。最近では512MBや1GBといった一昔前までパソコンの内蔵ハードディスク容量に匹敵するUSBメモリが登場し、しかも1万円に満たない価格で買えるのですから、その技術の発達にはただただ驚かされます。

USBメモリは大変便利なメディアではありますが、その手軽さはある意味で危険性も伴っています。フロッピーディスクでは収まりきれなかった大事な個人情報やプライベートな画像などを誰でも容易に扱ってしまうからです。また、コンパクトゆえに紛失の危険性もあります。くれぐれも家の外のパソコンに差したまま忘れてほしくないようにしてください。

冒頭にUSBメモリとはフラッシュメモリの一種であるとお話ししましたが、今回はそのフラッシュメモリそのもの話と、数々のフラッシュメモリの仲間たちの紹介をしたいと思います。

みやすぎ ひろし（管理運営課）